第九講『源氏物語』〈宿木〉

次の文は、『源氏物語』宿木巻の一節である。中の君（女君）を妻としていた匂宮（宮）は、時の権力者である右大臣（右大殿（みぎのおほいどの））の娘との縁談を断り切れず、しぶしぶながら承諾した。その婚儀は八月十六日の夜に予定されている。これを読んで、後の問に答えよ。

右大殿には、六条院の東の御殿（おとど）磨きしつらひて、限りなくよろづをととのへて待ちきこえたまふに、十六日の月やうやうさし上がるまで心もとなければ、「いとしも御心に入らぬことにて、いかならん」と安からず思ほして、*案内したまへば、「この夕つ方内裏（うち）より出でたまひて、*二条院になんおはしますなる」と人申す。(1)<u>思（おぼ）す人持（も）たまへればと心やましけれど</u>、今宵過ぎなんも人笑へなるべければ、御子の頭中将して聞こえたまへり。

　大空の月だにやどるわが宿に待つ宵すぎて見えぬ君かな

宮は、「なかなか*今なんとも見えじ、心苦し」と思して、内裏におはしけるを、*御文聞こえたまへりける、*御返りやいかがありけん、なほいとあはれに思されければ、忍びて渡りたまへりけるなりけり。らうたげなるありさまを見棄てて出づべき心地もせず、A<u>いとほしければ</u>、よろづに契り慰めて、もろともに月をながめておはするほどなりけり。女

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

君は、日ごろもよろづに思ふこと多かれど、(2)いかで気色に出ださじと念じ返しつつ、つれなく冷(さ)ましたまふことなれば、ことに＊聞きもとどめぬさまに、＊おほどかにもてなしておはする気色いとあはれなり。

中将の参りたまへるを聞きたまひて、さすがにかれもBいとほしければ、出でたまはんとて、「(3)今いととく参り来ん。ひとり月な見たまひそ。心そらなればいと苦し」と聞こえおきたまひて、なほかたはらいたければ、隠れの方より寝殿へ渡りたまふ。御後手(うしろで)を見送るに、ともかくも思はねど、ただ枕の浮きぬべき心地すれば、「心憂きものは人の心なりけり」と我ながら思ひ知らる。

（『源氏物語』より）

注（＊）

案内したまへば＝右大臣が人を遣わして匂宮の様子を探らせなさったところ。
二条院＝匂宮が中の君と共に住んでいる屋敷。
今なんとも見えじ＝今日が婚儀の日であると、中の君に知られないようにしよう。
御文＝匂宮から中の君へのお手紙。
御返りやいかがありけん＝中の君からのお返事はどのようであったのだろうか。語り手の推測。
聞きもとどめぬさま＝匂宮の縁談を気にもとめない様子。
おほどかに＝おっとりと。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問一　傍線部（1）を、主語を明らかにして現代語訳せよ。

問二　傍線部（2）（3）を現代語訳せよ。

（2）＝

（3）＝

問三　傍線部Ａ・Ｂは、いずれも匂宮の気持ちを述べたものである。それぞれどのような気持ちか、説明せよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

問四　波線部における中の君の心理を説明せよ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第九講　復習問題

①「心もとなく」はどのような意味か。最適のものを次の中から選べ。

ア　不満に　　イ　不本意に　　ウ　気休めに
エ　待ち遠しく　　オ　情なく

②「な泣きたまひそ」の口語訳として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　泣くかもしれない　　イ　泣いてはいけない　　ウ　お泣きなさるな
エ　泣くだろうな　　オ　お泣きなさるだろう

③「今はいかで見聞かずだにありにしがな」の現代語訳として、最も適当なものを次の中から選べ。

ア　今は何とかしてせめてあの人に関するうわさだけでも聞きたい
イ　今ではどんなに小さなことでもあの人について知らないことはない
ウ　今までどうしてあの人のうわさを耳にもせず過ごしてきたのだろう
エ　今はどうにかしてあの人のことを見たり聞いたりもせず過ごしたい
オ　今までどうしてあの人のことを見聞きせずにいられたのかわからない

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

④「墨染の袖も絞るばかりなる気色」とあるが、何をどのように表現しているのか。最も適切なものを次の中から選べ。

ア　山科の中将入道の信仰心の篤さを、衣の色が墨が滴るほど濃くなったと表現している。
イ　山科の中将入道の深く悲しむ姿を、涙で濡（ぬ）れた袖が絞れるほどであると表現している。
ウ　世間の人びとの悲しみを、葬列を見送る人たちの雨に濡れる姿によって表現している。
エ　葬列が早朝の大路を進む様子を、朝露で棺の中までも濡れてしまったと表現している。
オ　葬列が勢いよく進む様子を、車を引く従者の衣が汗で絞れるほどであると表現している。

⑤「袂乾く世なき」とはどのような事柄を表していると思うか、正しいと思われるものを次の中から選べ。

ア　いつも雨が降っているので、着物がぬれてしまい、干して乾かすことが出来ないこと。
イ　袂が長すぎるので、毎日の仕事ですぐに濡らしてしまうこと。
ウ　古い着物なので、いつもじっとりと湿っていて乾かないこと。
エ　忙しくて昔を思い出している暇も無いことを比喩的に袂が乾く暇もないということで、「袂乾く世なき」と言うこと。
オ　古い知己を思って泣いてばかりいて、着物の袂で涙を拭うので、涙で袂が濡れて、乾かす暇も無いこと。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

第九講　模範解答

問一　匂宮には大切に思っていらっしゃる中の君がいらっしゃるので、婚儀に来ないのではないかと右大臣は不快に思うが、

問二　（２）なんとかして悩んでいることを顔色に出さないようにしようと何度も我慢しては、平静に装いなさることであるので

（３）今すぐに戻って参ろう。一人で月を御覧なさるな。あなたを残していく私は、心が上の空なのでとてもつらい。

問三　Ａは、中の君を見捨てて、右大臣の娘との婚儀に行くのが気の毒だという気持ちで、Ｂは、右大臣側は匂宮が来るのを待っているのに、婚儀に行かないのも、右大臣家に対して気の毒だという気持ち。

問四　匂宮と右大臣の娘との婚儀は仕方のないことだけど、そう思うのに泣くほど悲しいのは、自分の心が弱いせいなので、人の心は情けないものであると、自分のことながら身にしみて感じている。

〈現代語訳〉

右大臣におかれては、六条院の東の御殿を美しく飾り立てて、この上もなく万事整えて（匂宮を）お待ち申し上げなさるのに、十六夜の月がだんだん空に上がるまで（宮はいらっしゃらず）じれったいので、「（宮はこの縁談を）たいして気乗りではないことなので、どうなることであろう」と不安にお思いになって、（右大臣が使者を）遣わし（て、匂宮の様子を探らせ）なさったところ、「この夕方に宮中から退出なさって、（匂宮は）二条院にいらっしゃるそうです」と使者が申し上げる。（匂宮には）大切に思っていらっしゃる人（＝中の君）がいらっしゃるから（婚儀には来ないのではないか）と（右大臣は）不快に思うが、今夜過ぎてしまうのも世間のもの笑いになるに違いないので、ご子息の頭中将に命じて（＝使者として）申し上げなさった。

　大空の……＝大空の月さえ入ってきます私の家に、お待ちする宵が過ぎてもおいでにならないあなたなのですね。

　宮は、「なまじっか今日が婚儀の日であると、中の君に知られないようにしよう。気の毒だ」とお思いになって、宮中にいらっ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

しゃったのだが、（そちらから中の君に）お手紙を差し上げなさった、その（中の君からの）お返事はどのようであったのだろうか、やはりたいそうしみじみと（中の君を）愛しくお思いになったので、こっそりと（二条院へ）おいでになったのだった。（中の君の）可愛らしい様子を見捨てて出て行こうという気持ちもせず、気の毒なので、様々に（二人の将来のことなどを）約束し慰めて、一緒に月を眺めていらっしゃるところであった。中の君は、このところ何かにつけて思い悩むことが多いのだが、なんとかして（それを）顔色には出さないようにしようと何度も我慢しては、平静に装いなさることなので、とくに（匂宮の縁談を）気にもとめない様子で、おっとりとふるまっていらっしゃるそぶりが本当にかわいそうである。

中将が参上なさったのをお聞きになって、（匂宮は）そうは言ってもやはりあちらの方も気の毒なので、お出かけになろうとして、（中の君に）「今すぐに戻って参ろう。一人で月を見なさるな。（あなたを残して行く私は）心が上の空なのでとてもつらい」と申し上げ置きなさって、それでもやはりきまりが悪いので、人目につかない所を通って（中将に会うために）寝殿へいらっしゃる。その（匂宮の）御後ろ姿を（中の君が）見送るにつけ、あれこれと思わないけれど、ただ流れる涙で枕が浮いてしまいそうな気持ちがするので、「情けないものは人の心であるのだなあ」と自分のことながら身にしみて感じる。

〈重要単語〉

○こころもとなし【心許なし】…①**はっきりしない**。②**気がかりだ**。③**待ち遠しい**。
○あないす【案内す】…①**取次ぎを頼む**。②事情を明らかにする。
○こころぐるし【心苦し】…①**つらい**。②**心配である**。③**気の毒だ**。
○らうだげなり…**かわいらしい**。
○ねんず【念ず】…①**祈る**。②**我慢する**。
○つれなし…①**冷淡だ**。②**そしらぬ顔だ**。③平気だ。④なんの変化もない。
○こころうし【心憂し】…①**つらい**。情けない。②不愉快だ。

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。

復習問題　第九講　解答解説

〔解説〕

①「心もとなし」は、重要単語で「はっきりしない・気がかりだ・じれったい」の意味。よって、正解はエ。

②「**な〜そ**」は「**〜してくれるな**」と訳す禁止の呼応の副詞。「たまひ」は尊敬の補助動詞。両方きちんと訳せているのはウのみ。よって、正解はウ。

③「**いかで**」が「**にしがな**〔＝**自己願望**の終助詞〕」と一緒に用いられているので、「**なんとかして・どうにかして**」という訳になる。「見聞か**ず**」なので「見たくないし、聞きたくない」のである。よって、正解はエ。

④「**袖も絞る**」は、「**涙で**袖が濡れる」＝「**泣く**」という意味になる。よって、正解はイ。ちなみに「**墨染**」は「**僧衣**」の意味。「入道」は「僧」。全てきちんと解釈できているものはイ。

⑤「**袂が乾かない**」＝「**涙で**袖が濡れている」＝「**泣く**」ということ。よって、正解はオ。

〔解答〕

①　エ　②　ウ　③　エ　④　イ　⑤　オ

© RECRUIT HOLDINGS
本サービスに関する知的財産権その他一切の権利は著作権者に帰属します。
また本サービスに掲載の全部または一部につき無断複製・転載を禁止します。